

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所ルアナ大開（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	R7年12月5日		～ R7年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	R8年1月10日		～ R8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月10日		

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援・少グループでの支援に特化し、より利用児1人1人の特性や課題に集中してアプローチすることが可能になっている。	構造化され、複数の部屋を使用することが出来るので、課題や活動に合わせて場所を工夫して使用している。	年齢や発達課題により合った活動を提供できるよう、継続してスタッフの質の向上を図るため積極的に学びの場やミーティングの機会をもっていく。
2	地域の活動に積極的に参加し、公共交通機関の使用や公共の場でのルール、マナーそして社会体験を通して自立や将来を意識した支援を行っている。	積極的に地域のイベントに参加し、子どもから大人まで様々な人たちと交流できるようにしている。イベントによっては事前にSSTなどで交流の仕方や挨拶、交通機関の乗り方なども練習して混乱なく参加できるようにしている。社会体験を通し、将来へのイメージ作りや働くことについても一緒に考えられるような支援を意識している。	継続して様々な地域交流の場に積極的に参加していくことと、これまで挑戦したことのない体験、子ども達自身が興味を持っていることへの挑戦などを通して、成功体験、レジリエンスなどを育めるよう支援していきたい。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	高学年特有の「時間不足問題」	高学年になると、授業時間が増え必要な支援時間の確保がどうしても難しくなってしまう。	施設到着時間が遅い児童には掃除の時間をなくし、個別支援で活動を行うこともしているが、今後、活動時間の確保が難しい児童は保護者とも相談のうえ17時以降にも活動を入れることを検討している。
2	支援終了後当日の振り返り時間が確保できない	支援終了とともに送迎に出てしまい、スタッフの振り返りがその日の内に行うことが難しい。	翌日休暇のスタッフについては当日出来る分残ったスタッフで振り返りを行い、全体の振り返りは翌日のミーティングで共有してから記録を書くようにしている。今後もいい方法がないか模索していく。
3	標準化アセスメントの統一不足	高学年になると定期的に検査を受けている児童は結果で追えるが、検査を受けていない児童は施設でVineland-IIで適応評価を行っているが施設でのどのアセスメントツールでどの児童にどのくらいの期間でなどがまだ検討中で定まっていない。	心理士資格をもったスタッフを中心に施設にあった標準化アセスメントツール使用について検討をしていく